

計画策定と効果的な対策実施のために必要なシカ基礎知識

株式会社 野生動物保護管理事務所
濱崎 伸一郎

講演要旨

ニホンジカ（以下、シカという）は主要な狩猟獣であり、明治時代から昭和初期にかけて生息数が著しく減少し捕獲が制限された。しかし、近年は様々な要因によって個体数が過剰になり、農林業被害の増加だけでなく自然植生への影響も大きな問題となっている。また、分布も急速に拡大しており、適切な管理が喫緊の課題となっている。

■ シカの特徴

シカは、北海道から南西諸島まで広く分布している。適応力が高く、毒性のあるもの以外はほとんどの植物を採食する。1才で性成熟し、2才以上の妊娠率は80～90%以上と高く、自然増加率は年率約1.2～1.3と報告されている。一夫多妻制であることから個体数を減少させるにはメスの捕獲が重要である。また、積雪や捕獲圧の偏りによって季節移動をすることから、広域的かつ戦略的管理が必要な動物である。

■ 生息数と捕獲数

階層ベイズモデルにより、2017年度末の本州以南の生息個体数は244万頭（中央値）、北海道では約66万頭と推定されている。本州以南の生息数は2014年まで増加していたが、2015年以降は減少している。2017年度の本州以南の捕獲数は約48万頭であり、近年の捕獲圧の増加が減少の要因であるが、シカ密度は依然として過剰であり、さらなる捕獲努力が必要である。

■ 農作物被害と被害対策

2017年度のシカによる農作物被害金額は全国で55.3億円であり、鳥獣被害全体の1/3を占めている。また森林被害面積はシカが7割以上を占めており、自然植生への影響も全国で問題となっていることから、適切な被害防除と個体数管理の推進が必要である。

■ 戦略的な個体数管理

効果的なシカ個体数管理には、各地域におけるシカの行動特性を把握し、それに応じた捕獲適地、捕獲適期及び捕獲手法の検討が重要である。また、捕獲努力量の維持、拡大のためには捕獲技術者の育成と適材適所の人材配置が求められる。さらに、適切なシカ密度（指標）と被害・自然植生のモニタリングにより捕獲効果の評価と計画の見直しを短いサイクルで実施していくことが必要である。

■ 管理計画におけるPDCAサイクルの実践

シカの個体数減少、適正密度への誘導には管理計画における階層的なPDCAサイクルの実践が必要であり、年単位、計画期間単位の施策、評価、計画の修正が求められる。